

なぜ今、米国ハイ・イールド債券市場に注目すべきか

フィデリティ投信株式会社



当資料の
ポイント

- Point 1** 米国ハイ・イールド債券市場の反転上昇に二つの要因が寄与 Page 1
- Point 2** 米国ハイ・イールド債券市場は上昇後も依然として割安な水準 Page 2
- Point 3** 1年半から2年程度の期間で見れば、現在は投資の好機 Page 2

新型コロナウイルスの感染拡大を背景に短期間での需要急減が世界規模で起きた結果、全てのリスク資産価格が2020年2月下旬から大幅に調整しました。その後、米国ハイ・イールド債券市場を含む金融市場は3月下旬から反転上昇し、足元はレンジでの推移となっています。米国ハイ・イールド債券市場に関する運用担当者の考え方をご紹介します。今回のレポートの内容は弊社HPにて動画でも公開しておりますので、是非そちらもご覧下さい。



ポートフォリオ・マネージャー
ハーリー・ランク



Q1

米国ハイ・イールド債券市場が反転した要因は？

A

- 一つは、企業および経済の急激なファンダメンタルズ悪化の引き金となった新型コロナウイルスについて、米国における感染拡大ペースにピークアウトの兆しがみられると金融市場が判断したことです。
- もう一つがより重要な要因と考えていますが、米連邦準備制度理事会 (FRB) と米財務省は前例のない規模の経済対策を打ち出しました。米政権と議会は経済刺激策を2兆米ドルを超える規模にまで拡大させました。また4月9日には、FRBは投資適格債券から格下げされた債券(フォーリン・エンジェル)、およびハイ・イールド債券が組み入れられたETF(上場投信)の買い入れを発表しました。
- これらの要因が、ハイ・イールド債券市場をはじめとする多くのリスク資産市場の安定化に寄与しました。

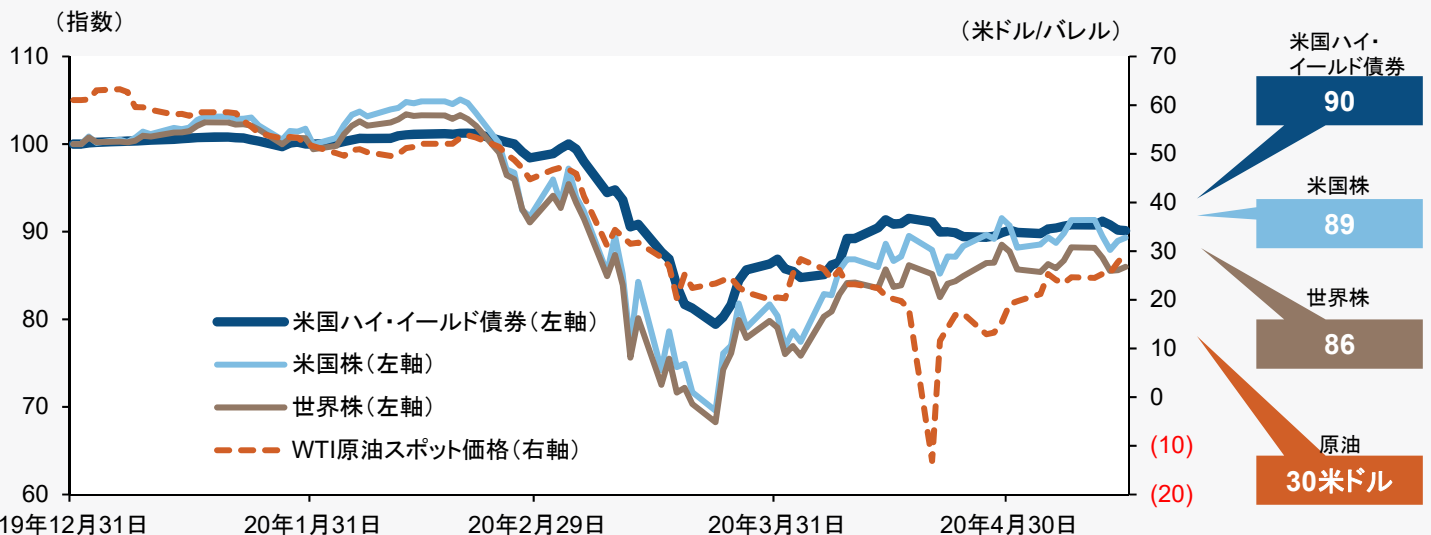
<https://www.fidelity.co.jp/static/japan/video/2020-521-USHY.html>

↑ポートフォリオ・マネージャーの動画を公開しておりますので、こちらのQRコードまたはURLからご覧下さい。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

金融市場は3月下旬から反転上昇、4月下旬以降はレンジでの推移

年初来の各資産の推移(期初=100)、ならびに原油価格の推移



(注) RIMES、Refinitivよりフィデリティ投信作成。2019年12月末～2020年5月15日。原油価格以外は期初を100として指数化。米ドルベース。

なぜ今、米国ハイ・イールド債券市場に注目すべきか

フィデリティ投信株式会社



Q2

今の米国ハイ・イールド債券は適正水準なのでしょうか？

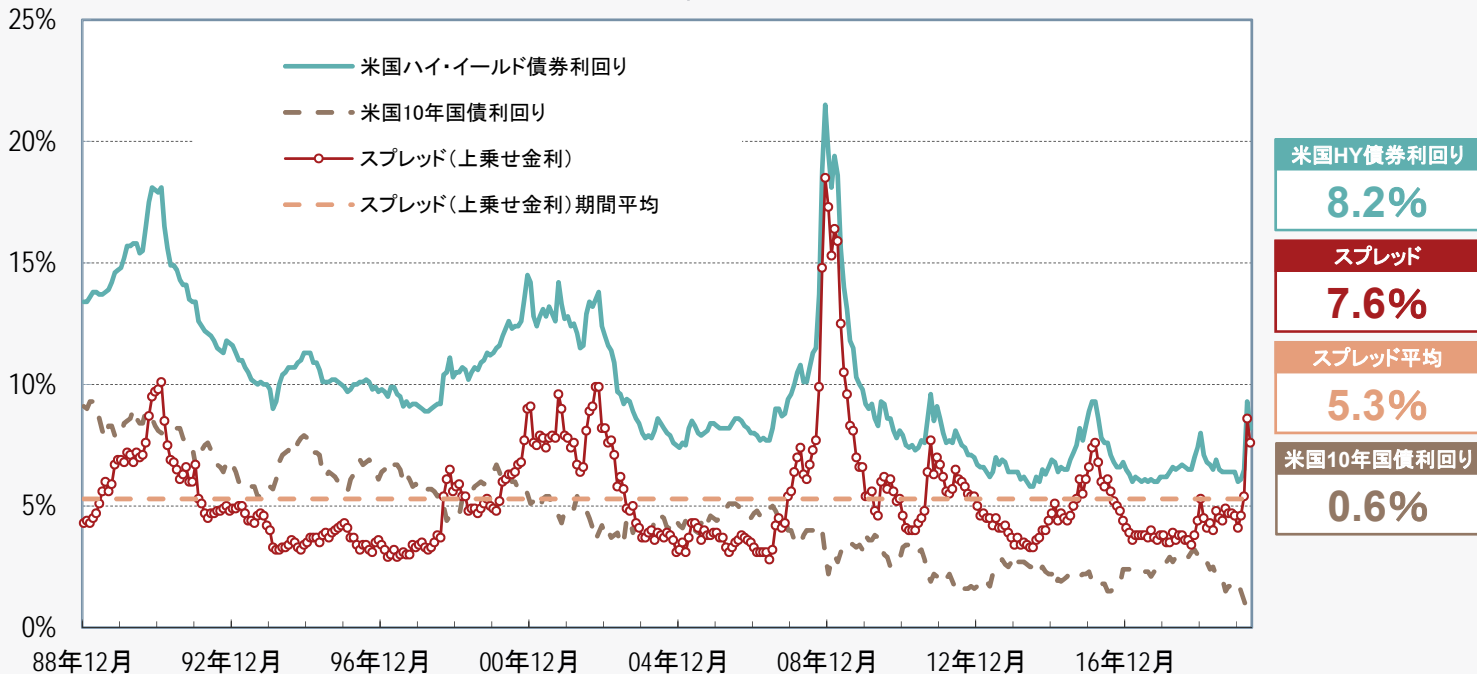
A

- 米国ハイ・イールド債券の利回りは8%程度となっており、足元のスプレッド(国債に対する上乗せ金利)については、長期平均に対して2%程度も拡大(価格は下落)した水準にあることから、過去との比較では、米国ハイ・イールド債券は依然として割安な水準にあると考えています。
- ただし、ファンダメンタルズに対する懸念や米国経済が直面する危機を考慮すれば、足元の水準は少なくとも今後数四半期にわたっては適正と言えるでしょう。重要なポイントは、この水準が中長期でみて適正なのか、また適正水準を考えるにあたって今後どのように状況が変化していくのか、ということでしょう。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

利回りとスプレッドは依然として高水準

米国ハイ・イールド債券の利回り等の推移



(注)RIMESよりフィデリティ投信作成。1988年12月末～2020年4月末。米国ハイ・イールド債券は1996年11月以前はICE BofA USハイ・イールド・インデックス。それ以降はICE BofA USハイ・イールド・コンストレインド・インデックス。スプレッド(上乗せ金利)は、小数点以下第2位で四捨五入した米国ハイ・イールド債券と米国10年国債の利回りの差。

Q3

今後の世界経済の正常化と米国ハイ・イールド債券の見通しは？

A

- 今後米国経済はV字回復する可能性は低く、非常に長い時間をかけた緩やかな回復になると考えています。一方で、フィデリティの幅広い調査体制を活かした分析によれば、今後半年から1年の間に新型コロナウイルスの感染拡大は収束に向かい、また今後1年半の間にワクチンの大量生産が可能となる見通しです。
- 上記の見通しから、今後1年半から2年の間に世界経済は正常化に向かい、それに伴って米国ハイ・イールド債券のスプレッドは現在の水準から縮小(価格は上昇)することが見込まれます。現在の水準は、中長期の保有を行う投資家にとっては魅力的な投資機会と言えるでしょう。今後も1年半程度は市場の変動率が高止まりすることが予想されます。長期投資家としての私たちの役割は、市場の短期的な変動を活用し、長期的な見通しに基づき、有望な銘柄を見つけ出すことです。結論として、現在の市場環境は米国ハイ・イールド債券への投資を開始する好機であると考えます。

(注)当資料作成時点の見方です。今後予告なく変更されることがあります。

なぜ今、米国ハイ・イールド債券市場に注目すべきか

フィデリティ投信株式会社



■ ご注意点

- 当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
 - 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
 - 当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
 - 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りします。
 - 投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
 - 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
 - 販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
 - 投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
 - 投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
 - 投資信託説明書(目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
 - ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
 - ・申込時に直接ご負担いただく費用: 申込手数料 上限 4.40%(消費税等相当額抜き4.0%)
 - ・換金時に直接ご負担いただく費用: 信託財産留保金 上限 0.3%
 - ・投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用: 信託報酬 上限 年率2.123%(消費税等相当額抜き1.93%)
 - ・その他費用: 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。
- ※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドに係る費用・税金の詳細については、各ファンドの投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

ご注意) 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

フィデリティ投信株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第388号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

IM200521-2 CSIS200521-4